

I. 活断層で発生する地震の発生確率値の更新前後の比較(算定基準日 令和8年(2026年)1月1日)

	2025年1月1日時点の評価	2026年1月1日時点の評価
六日町(北部/ケース2)	Zランク	Zランク
経過率	0.005~0.007もしくはそれ以上	0.006~0.007もしくはそれ以上
糸魚川-静岡構造線(北部)	S*ランク(高い)	S*ランク(高い)
30年	0.009~16%	0.01~16%
100年	0.05~40%	0.06~40%
高山・大原(国府)	S*ランク(高い)	S*ランク(高い)
経過率	0.07~1.3	0.08~1.3
有馬-高瀬	Zランク	Zランク
100年	ほぼ0%~0.4%	ほぼ0%~0.5%

	2025年1月1日時点の評価	2026年1月1日時点の評価
生駒	Aランク(やや高い)	Aランク(やや高い)

■ Sランク(高い):30年以内の地震発生確率が3%以上
 ■ Aランク(やや高い):30年以内の地震発生確率が0.1~3%未満
 ■ Zランク:30年以内の地震発生確率が0.1%未満
 ■ Xランク:地震発生確率が不明(過去の地震データが少ないため、確率の評価が困難)
 算定基準日における地震後経過率が0.7以上である活断層については、ランクに「*」を付記する。
 Zランクでも、活断層が存在すること自体、当該地域で大きな地震が発生する可能性を示す

※活断層評価備考

・ここに掲載しているものは、再計算等の結果、発生確率値又は前回の地震発生からの経過率の表記に変更のあったものである。

・確率値は、有効数字1桁で記述している。ただし、30年確率が10%台の場合は2桁で記述する。

・括弧「()」の値は、参考値として確率の計算値を表したものである。この値は有効数字1桁(または2桁)で示す確率値より、下位の桁の値を含んでいる。

II. 海溝型地震の発生確率値の更新前後の比較(算定基準日 令和8年(2026年)1月1日)

	2025年1月1日時点の評価	2026年1月1日時点の評価
千島海溝	III*ランク(高い)	III*ランク(高い)
超巨大地震(17世紀型)(M8.8程度以上)		
10年	2%~10%	2%~10%
20年	4%~30%	4%~30%
30年	7%~40%	7%~40%
40年	9%~50%	9%~50%
50年	10%~60%	10%~60%
100年	20%~80%	20%~80%
300年	40%~90%程度以上	40%~90%程度以上
平均発生間隔	約340年~380年	約340年~380年
経過率	1.02~1.20	1.02~1.20
十勝沖(M8.0~M8.6程度)	IIランク(やや高い)	IIランク(やや高い)
10年	0.7%	0.9%
20年	5%	6%
30年	20%程度	20%程度
40年	30%程度	30%程度
50年	40%程度 (44%)	50%程度 (46%)
100年	90%程度	90%程度
300年	90%程度以上	90%程度以上
平均発生間隔	80.3年	80.3年
ばらつき α	0.38	0.38
経過率	0.26	0.28
根室沖(M7.8~M8.5程度)	III*ランク(高い)	III*ランク(高い)
10年	30%程度	30%程度
20年	60%程度 (64%)	70%程度 (66%)
30年	80%程度 (84%)	90%程度 (85%)
40年	90%程度	90%程度以上
50年	90%程度以上	90%程度以上
100年	90%程度以上	90%程度以上
300年	90%程度以上	90%程度以上
平均発生間隔	65.1年	65.1年
ばらつき α	0.22	0.22
経過率	0.79	0.81

	2025年1月1日時点の評価	2026年1月1日時点の評価
日本海溝	Iランク	Iランク
超巨大地震(M9.0程度)		
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%
100年	ほぼ0%	ほぼ0%
300年	ほぼ0%~5%	ほぼ0%~5%
平均発生間隔	約550~600年	約550~600年
経過率	0.02~0.03	0.02~0.03
青森県東方沖及び岩手県沖北部(M7.9程度)	IIIランク(高い)	IIIランク(高い)
10年	0.04%~6%	0.06%~6%
20年	2%~20%	2%~20%
30年	20%~40%	20%~40%
40年	50%程度	50%程度
50年	70%~80%	70%~80%
100年	90%程度以上	90%程度以上
300年	90%程度以上	90%程度以上
発生間隔	97.0年	97.0年
ばらつき α	0.11~0.24	0.11~0.24
経過率	0.58	0.59
宮城県沖の陸寄りの地震(M7.4前後)	IIIランク(高い)	IIIランク(高い)
10年	ほぼ0%~3%	0.001%~5%
20年	10%~40% (13%~35%)	20%~40% (20%~40%)
30年	80%~90% (76%~93%)	80%~90%程度以上 (79%~95%)
40年	90%程度もしくはそれ以上	90%程度以上
50年	90%程度以上	90%程度以上
100年	90%程度以上	90%程度以上
300年	90%程度以上	90%程度以上
発生間隔	38.0年	38.0年
ばらつき α	0.1~0.24	0.1~0.24
経過率	0.36	0.39

	2025年1月1日時点の評価	2026年1月1日時点の評価
相模トラフ	IIランク(やや高い)	IIランク(やや高い)
M8クラス		
10年	ほぼ0%~2%	ほぼ0%~2%
20年	ほぼ0%~4%	ほぼ0%~4%
30年	ほぼ0%~6%	ほぼ0%~6%
40年	ほぼ0%~9%	ほぼ0%~9%
50年	ほぼ0%~10%	ほぼ0%~10%
100年	ほぼ0%~30%	ほぼ0%~30%
300年	ほぼ0%~80%	ほぼ0%~80%
平均発生間隔	180~590年	180~590年
経過率	0.17~0.56	0.17~0.57

■ IIIランク(高い):30年以内の地震発生確率が26%以上
 ■ IIランク(やや高い):30年以内の地震発生確率が3~26%未満
 ■ Iランク:30年以内の地震発生確率が3%未満
 ■ Xランク:地震発生確率が不明(過去の地震データが少ないため、確率の評価が困難)
 算定基準日における地震後経過率が0.7以上である海溝型地震については、ランクに「*」を付記する。

日本海東縁部	2025年1月1日時点の評価		2026年1月1日時点の評価	
	I ランク	I ランク	I ランク	I ランク
北海道北西沖 (M7.8程度)	10年 0.002%～0.04%	0.002%～0.04%	20年 0.004%～0.07%	0.004%～0.07%
	30年 0.006%～0.1%	0.006%～0.1%	40年 0.008%～0.2%	0.008%～0.2%
	50年 0.01%～0.2%	0.01%～0.2%	100年 0.03%～0.4%	0.03%～0.4%
	300年 0.2%～2%	0.2%～2%	3900年程度	3900年程度
平均発生間隔	ばらつき α	0.17-0.24	ばらつき α	0.17-0.24
経過率	0.54	0.54		
北海道西方沖 (M7.5前後)	I ランク	I ランク	I ランク	I ランク
	10年 ほぼ0%	ほぼ0%	20年 ほぼ0%	ほぼ0%
	30年 ほぼ0%	ほぼ0%	40年 ほぼ0%	ほぼ0%
	50年 ほぼ0%	ほぼ0%	100年 ほぼ0%	ほぼ0%
	300年 ほぼ0%	ほぼ0%	3900年程度	3900年程度
平均発生間隔	ばらつき α	0.17-0.24	ばらつき α	0.17-0.24
経過率	0.02-0.06	0.02-0.06		
北海道南西沖 (M7.8前後)	I ランク	I ランク	I ランク	I ランク
	10年 ほぼ0%	ほぼ0%	20年 ほぼ0%	ほぼ0%
	30年 ほぼ0%	ほぼ0%	40年 ほぼ0%	ほぼ0%
	50年 ほぼ0%	ほぼ0%	100年 ほぼ0%	ほぼ0%
	300年 ほぼ0%～5%	ほぼ0%～5%	500-1400年程度	500-1400年程度
平均発生間隔	ばらつき α	0.17-0.24	ばらつき α	0.17-0.24
経過率	0.02-0.06	0.02-0.06		
青森県西方沖 (M7.7前後)	I ランク	I ランク	I ランク	I ランク
	10年 ほぼ0%	ほぼ0%	20年 ほぼ0%	ほぼ0%
	30年 ほぼ0%	ほぼ0%	40年 ほぼ0%	ほぼ0%
	50年 ほぼ0%	ほぼ0%	100年 ほぼ0%	ほぼ0%
	300年 ほぼ0%～7%	ほぼ0%～7%	500-1400年程度	500-1400年程度
平均発生間隔	ばらつき α	0.17-0.24	ばらつき α	0.17-0.24
経過率	0.03-0.08	0.03-0.09		

南海トラフ	2025年1月1日時点の評価		2026年1月1日時点の評価	
	III*ランク(高い)	III*ランク(高い)	III*ランク(高い)	III*ランク(高い)
M8～M9クラス (すべり量依存BPTモデル)	10年 ほぼ0%～40%	20年 20%～80%	30年 60%～90%程度以上	40年 80%～90%程度以上
	50年 90%程度もしくはそれ以上	100年 90%程度以上	300年 90%程度以上	90%程度もしくはそれ以上
平均発生間隔 ^(注)	95.9年	90%程度以上	90%程度以上	90%程度以上
ばらつき α ^(注)	0.17	0.17	0.17	0.17
経過率	0.82	0.83	0.83	0.83
M8～M9クラス (BPTモデル(ケースIII))	IIIランク(高い)		IIIランク(高い)	
	10年 0.07%～9%	20年 6%～30%	30年 20%～50%	40年 40%～70%
	50年 60%～90%	100年 90%程度以上	300年 90%程度以上	90%程度以上
平均発生間隔 ^(注)	117.4年	90%程度以上	90%程度以上	90%程度以上
ばらつき α ^(注)	0.2	0.2	0.2	0.2
経過率	0.67	0.68	0.68	0.68
日本海東縁部	2025年1月1日時点の評価		2026年1月1日時点の評価	
山形県沖(M7.7前後)	I ランク	I ランク	I ランク	I ランク
	10年 ほぼ0%	20年 ほぼ0%	30年 ほぼ0%	40年 ほぼ0%
	50年 ほぼ0%	100年 ほぼ0%	300年 0.001%～0.2%	1000年程度以上
平均発生間隔	0.17-0.24	0.17-0.24	0.17-0.24	0.17-0.24
ばらつき α	0.19以下	0.19以下	0.19以下	0.19以下
新潟県北部沖 (M7.5前後)	I ランク	I ランク	I ランク	I ランク
	10年 ほぼ0%	20年 ほぼ0%	30年 ほぼ0%	40年 ほぼ0%
	50年 ほぼ0%	100年 ほぼ0%	300年 ほぼ0%	1000年程度以上
平均発生間隔	0.17-0.24	0.17-0.24	0.17-0.24	0.17-0.24
ばらつき α	0.06以下	0.06以下	0.06以下	0.06以下

*海溝型地震備考

- ・ここに掲載しているものは、再計算を行ったもの全てである。
- ・水色で示した箇所が、再計算の結果、表記に変更のあったものである。
- ・確率値は、有効数字1桁で記述している。
- ・括弧「()」の値は、参考値として確率の計算値を表したものである。この値は有効数字1桁で示す確率値より、下位の桁の値を含んでいる。

(注)南海トラフの地震の場合、「平均発生間隔」及び「ばらつき α 」は評価時点におけるベイズ推定による事後分布の期待値である。